



CentreCOM™ **RE2000Plus**

WindowsNT Version 4.0 NetWare Version 4.11J MS-DOSクライアント

CentreCOM RE2000Plus シリーズイーサネットアダプター (RE2001Plus・RE2003Plus・RE2005Plus) をご購入いただき、誠にありがとうございます。この文書は、「ユーザーズマニュアル CentreCOM RE2000Plus シリーズ」の内容を補足するもので、以下の内容が記載されています。

1. Windows NT Ver. 4.0	2
2. NetWare 4.11J クライアント (MS-DOS)	13
3. NetWare 4.11J サーバー	16
4. 本文書に関するご注意	16

本文書は以下の仮定のもとに記述されています。

- [1] ディスクドライブ名については、フロッピーディスクドライブを A:、インストール先ドライブを C:、CD-ROM ドライブを E: と仮定します。
- [2] Windows NT Ver.4.0 はご使用のコンピュータに既にインストールされているものとします。

1. Windows NT Ver. 4.0

Windows NT Ver. 4.0にNDISドライバーをインストールする手順を説明します。ドライバーは、「RE2000Plus SERIES ドライバーディスク」の「¥WINDOWS.NT」に置かれています。



Windows NTのハードウェア互換性リスト(Windows NTパッケージに同梱されています)に挙げられていないパソコン機種で本ドライバーをご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのパソコン機種で本ドライバーをご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象になりません。



ここに挙げた例は一例であり、お客様の使用するパソコンやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがあります。予めご了承ください。



Windows NTのインストールを行ったあとで本アダプターをパソコンに取り付けてからドライバーのインストールを行うことをおすすめします。Windows NTはPlug&Playをサポートしていないため、Windows NTとドライバーのインストールを同時に行うと、Windows NTのインストール中に本アダプターが使用するリソース(I/Oベースアドレス・インタラプト)が他の拡張アダプターと重複するおそれがあり、重複の回避に手間取ることがあります。

(注) 本書では、Windows NT Workstation を用いて説明を行います。Windows NT Server をご使用の場合は画面の様子が本書に掲載しているものと若干異なる場合がありますが、インストールの手順はほぼ同じです。

1.1 インストールの手順 (概要)

本アダプターを使用するための手順は以下の通りです。

1 本アダプターをコンピュータに設置します。

設置の手順は「ユーザーズマニュアル」第3部をご覧ください。

2 本アダプターをイーサネットに接続します。

接続の手順は「ユーザーズマニュアル」第4部をご覧ください。

3 CFG2000.EXE を用いて I/O ベースアドレス・インタラプト (IRQ) の設定を行います。

Windows NT は Plug & Play をサポートしていないため、I/O ベースアドレス・インタラプトの値をユーザーが設定しなければなりません。工場出荷時の値は I/O ベースアドレス = 0x300、インタラプト = 10 ですが、これらが他の拡張アダプターと重複している場合は別の値に設定し直す必要があります。ドライバーをインストールする前に値が重複していないかを確認し、重複している場合は空いている値を調べ、その値に設定し直して下さい。

本アダプターが使用できる値を確認します。

値を確認する手順は、次項「1.2 リソースの確認」をご覧ください。

I/O ベースアドレス・インタラプトの値を必要に応じて設定します。

確認の結果、I/O ベースアドレス・インタラプトの変更が必要な場合は値を設定し直します。設定には本アダプター付属の設定プログラム「CFG2000.EXE」をご使用下さい。CFG2000.EXE は、「RE2000Plus SERIES ドライバーディスク」のルートに置かれています。設定可能な値の範囲は「ユーザーズマニュアル」付録 A「A.3 RE2000Plus シリーズ仕様」をご覧ください。「CFG2000.EXE」の使用方法については、ユーザーズマニュアル第5部をご覧ください。



CFG2000.EXE は MS-DOS の環境でご使用下さい。

Windows NT の「MS-DOS プロンプト」ウィンドウではご使用になれません。

4 ドライバーのインストールを行います。

本書「1.3 NDIS ドライバーのインストール」にしたがって、インストールを行ってください。

1.2 リソースの確認

本アダプターが使用するリソース (I/O ベースアドレス・インタラプト (= IRQ)) の値を以下の手順にしたがって確認します。

- (1) 「スタート」「プログラム」「管理ツール (共通)」「Windows NT 診断プログラム」と進み、「Windows NT 診断プログラム」を起動します。



図 A

- (2) 「リソース」タブを選択します。最初に「IRQ(I)」の画面が表示されますので現在の設定 (工場出荷時は 10 に設定されています) が既に使用されていないか調べます。値が重複している場合は他の値に設定する必要があるので空いている値を調べておきます。

設定可能な値の範囲は「ユーザーズマニュアル」付録 A「A.3 RE2000Plus シリーズ仕様」をご覧ください。



図 B

- (3) 次に、「I/Oポート(T)」ボタンをクリックして I/O ベースアドレスの画面を表示します。同様にして値が重複しないか確認の上、必要なら空いている値を調べておきます。

設定可能な値の範囲は「ユーザーズマニュアル」付録 A「A.3 RE2000Plus シリーズ仕様」をご覧ください。

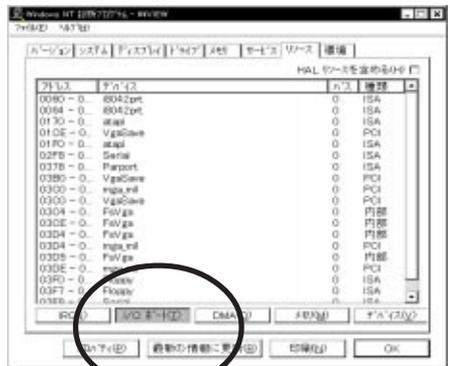


図 C

1.3 NDIS ドライバーのインストール

ここでは、「アダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」^{†1}場合の本アダプター用ドライバーのインストール手順について説明します。また、ここではWindows NT Setupが要求する問い合わせに対して、基本的にはデフォルトで答えると仮定しています。

- (1) 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックしてください。「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。



図 1

- (2) 「マイコンピュータ」ウィンドウの「コントロールパネル」アイコンをダブルクリックしてください。「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。



図 2

- (3) 「コントロールパネル」ウィンドウの「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。図 3 のダイアログが表示されます^{†1}。「今すぐインストールしますか?」の問いに対して、「はい (Y)」をクリックしてください。

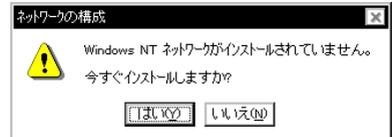


図 3

^{†1} 「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない (D)」を選択したとき、このダイアログが表示されます。

- (4) 「ネットワークセットアップウィザード」ダイアログが表示されます。「ネットワークに接続 (W):」にチェックマークを付け、「次へ (N)>」をクリックしてください。

図 4



- (5) 図 5 が表示されたら、「一覧から選択 (S)...」をクリックしてください。

図 5



- (6) 本アダプター用のドライバーを選択します。

CD-ROM からインストールする場合

「ネットワークアダプタの選択」ダイアログで「Allied Telesis RE2000 Adapter」を選択し、「OK」をクリックしてください。

図 6



ドライバーディスク^{†1}からインストールする場合

図6(前ページ)の「ディスク使用(H)」ボタンをクリックしてください。

図7のダイアログが表示されますので、ディレクトリとして「A:¥windows.nt」を入力し、「OK」をクリックしてください。(ここでは、フロッピーディスクのドライブ名をA:と仮定します。)



図7

「Allied Telesis RE2000 アダプタ」を選択し、「OK」をクリックしてください。



図8

- (7) 「ネットワークセットアップウィザード」の「ネットワークアダプタ (A):」の「Allied Telesis RE2000 アダプタ」(または「Allied Telesis RE2000 Adapter」, 以下同様) にチェックマークを付け、「次へ (N):」をクリックしてください。



図9

- (8) 使用するネットワークプロトコルにチェックマークを付け、「次へ (N):」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなプロトコルが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。ここでは、「TCP/IP プロトコル」のみをチェックすると仮定します。



図10

†1 フロッピーディスクでの供給の場合、CD-ROMに含まれるドライバーよりも新しいものが提供されることがあります。最新のドライバーは、バグフィクスや機能の改良などがほどこされています。最新のドライバーの入手方法はリリースノートの「最新ドライバソフトウェアの入手方法」をご覧ください。

- (9) 使用するサービスにチェックマークを付け、「次へ (N)>」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなサービスが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。

図 11



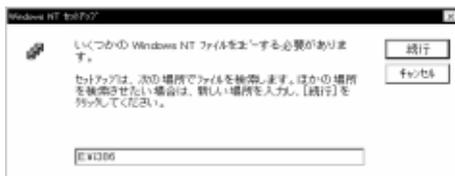
- (10) メッセージを確認して、「次へ (N)>」をクリックしてください。

図 12



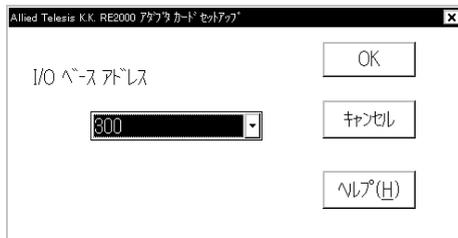
- (11) Windows NT のインストール元のディレクトリ「E:\386」を指定してください。ここでは CD-ROM ドライブのドライブ名を E: と仮定します。

図 13



- (12) 続いて RE2000 Plus の設定画面が表示されます。「I/O ベースアドレス」に CFG2000.EXE で設定した数値を入力してください。デフォルトは 300 です。

図 14



続いて「バスロケーション」ダイアログが表示されます。「種類(T)」で「ISA」を選択し、「OK」をクリックしてください。

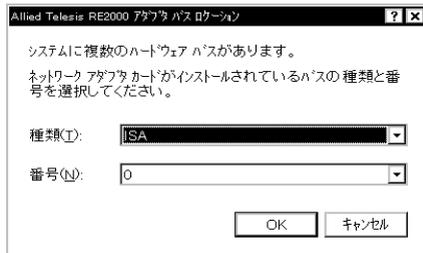


図 15

(13) コピーが始まります。



図 16

(14) 「DHCPを使用するか?」を質問されます。ここでは、デフォルトである「いいえ(N)」をクリックすると仮定します。



図 17

(15) (14)で「DHCPを使用しない」設定としたので、「TCP/IPのプロパティ」としてIPアドレスなどの値を設定しなければなりません。図 18 に入力例を示します。これらの値は、お客様の環境における値を入力してください。



図 18

- (16) DNS (Domain Name System) の設定をします。「DNS」のタブをクリックしてください。図 19 に入力例を示します。ここでは、ホスト名として「view」を仮定しています。



図 19

- (17) 続いて、「WINS (Windows Internet Name Service) アドレス」の設定を行います。右の画面では、「Windows 名前解決に DNS を使う (N)」を仮定しました。必要であれば、さらに「ルーティング」の設定を行い、最後に「OK」をクリックしてください。これらの設定の詳細についてはシステム管理者にご確認ください。

図 20 は Windows NT Workstation の場合の例です。Windows NT Server をご使用の場合はさらに「DHCP リレー」タブがあります。詳細はシステム管理者にご確認ください。



図 20

- (18) 「次へ (N)」をクリックしてください。



図 21

(19) 「次へ (N)」をクリックしてください。



図 22

(20) 「次へ (N)」をクリックしてください。
図 23 では、「ワークグループ (W)」をそのまま使用すると仮定します。



図 23

(21) 「完了」をクリックしてください。



図 24

(22) 「はい (Y)」をクリックし、パソコンを再起動してください。

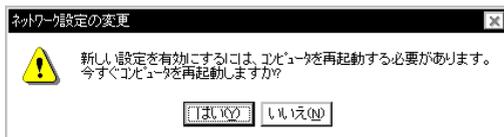


図 25

1.4 本アダプターのドライバーを削除する

- (1) 「マイコンピュータ」 「コントロールパネル」 「ネットワーク」とたどって行き、「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブをクリックしてください。
- (2) 「ネットワークアダプタ (N):」で「Allied Telesis RE2000 アダプタ」を選択し、「削除 (R)」ボタンをクリックしてください。



図 26

ネットワークアダプターを削除しても、そのアダプターにバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません (一部の設定値、例えば TCP/IP における IP アドレスなどは削除されます)。したがって、アダプターを再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

2. NetWare 4.11J クライアント (MS-DOS)

NetWare 4.11J の MS-DOS、Windows 3.1 クライアントのインストールにおける要点を説明します。インストール手順の詳細は、NetWare 4.11J のマニュアルをご覧ください。

[注] インストールでは、「クライアントフロッピーディスク」を使用すると仮定します (CD-ROM から直接インストールすることもできます)。「クライアントフロッピーディスク」は、NetWare の CD-ROM の「INSTALL」コマンドで作成できます。

準備と確認

1 **本アダプターをコンピュータに設置します。**

設置の手順は「ユーザーズマニュアル」第 3 部をご覧ください。

2 **本アダプターをイーサネットに接続します。**

接続の手順は「ユーザーズマニュアル」第 4 部をご覧ください。

3 **本アダプターが使用するリソース (I/O ベースアドレス・インタラプト (IRQ)) の値は他の拡張アダプターと重複しないように手動で設定してください。**

設定可能な値の範囲は「ユーザーズマニュアル」付録 A「A.3 RE2000Plus シリーズ仕様」をご覧ください。

ドライバーのインストール手順

(1) 「NetWare Client for DOS and MS Windows Disk 1」をフロッピーディスクドライブに入れ、下記のコマンドを実行してください。

```
A: ¥>INSTALL
```

(2) 表示される質問に対して、メニューの番号を入力してください。質問項目は、以下の 3 点です。

- ・お使いのコンピュータの選択
- ・インストールするクライアントの選択
- ・時間に関する環境変数の設定

- (3) NetWareのインストーラが表示するメッセージにしたがい、表示されている項目1、2、3、4の問いを決定してください。
- (4) 「5. ネットワークボードのドライバーを選択してください」を実行すると、「ドライバーディスクの挿入」を促す画面が表示されます。フロッピーディスクをRE2000Plus SERIES ドライバーディスクに入れ替え、下記のディレクトリ名を入力してリターンキーを押してください。

A: ¥>NW411

- (5) 「CentreCOM RE2000」を選択し、リターンキーを押してください。
- (6) 「CentreCOM RE2000の設定」という画面が表示されます。以下の項目の設定が終了したらESCキーを押し、この画面を終了してください。

Media Frame Type(S)

ご使用になるフレームタイプを選択してください。

- (7) 以後、インストールプログラムが表示するメッセージに従って操作してください。
- (8) インストールが終了し、DOS プロンプトが表示されたら、リセットスイッチを押してパソコンを再起動してください。

インストール結果

インストールが終了すると、NetWare クライアントの動作に必要なファイルやドライバー「RE2000.COM」がコピーされ、NET.CFG、STARTNET.BAT が作成されます。NetWare のインストーラは、AUTOEXEC.BAT に「@CALL A:¥NWCLIENT ¥STARTNET」、PATH に「A:¥NWCLIENT」、時間に関する環境変数「SET TZ=JST-9」を追加します（ここではフロッピーディスクドライブ名を A: と仮定します）。

NetWare クライアントのインストーラに対して、デフォルトの項目を選択したときの NET.CFG、STARTNET.BAT を示します。

NET.CFG

```
Link Driver RE2000
PORT 300
FRAME Ethernet_802.2

NetWare DOS Requester
FIRST NETWORK DRIVE = F
NETWARE PROTOCOL = NDS BIND
SHORT MACHINE TYPE = DOSV
```

STARTNET.BAT

下記に例を挙げます。

```
SET NWLANGUAGE=NIHONGO
A:¥NWCLIENT¥LSL.COM
A:¥NWCLIENT¥RE2000.COM
A:¥NWCLIENT¥IPXODI.COM
A:¥NWCLIENT¥VLM.EXE
```

手作業による NET.CFG の編集について

NetWare 3.11J や当社の CentreNET PC/TCP との共存環境の構築を行う場合は、「ユーザズマニュアル」 「6.3.6 NetWare 4.1J / 3.12J と 3.11J の共存環境」をご覧ください。これらの記載内容は、NetWare 4.11J に対しても適用できます。

3. NetWare 4.11J サーバー

NetWare 4.11J サーバーのインストール手順は、4.1J サーバーの手順とほぼ同様です。「ユーザーズマニュアル」の「6.4.1 NetWare 4.1J サーバのインストール」をご覧ください。ここでは、注意すべき点についてのみ説明します。

項目「**ドライバーのロード**」は4.11Jでは項目「**追加ドライバーの選択**」となっています。ディレクトリは以下になります。ここでは、フロッピードライブを A:と仮定します。

A:¥>NETWARE.386¥411

4. 本文書に関するご注意

- (1) 本マニュアルは、アライドテレシス(株)が作成したもので、全ての権利をアライドテレシス(株)が保有しています。アライドテレシス(株)に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- (2) アライドテレシス(株)は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。
- (3) アライドテレシス(株)は、改良のため製品の仕様を予告なく変更、改良することがありますのでご了承ください。
- (4) 本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

(C) 1997 アライドテレシス株式会社

Microsoft、Windows、MS-DOSは米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

Novell、NetWareは、米国 Novell, Inc. の登録商標です。

この文書に掲載されているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

マニュアルバージョン

1997年03月

Ver.1.0 pl 0

1st release